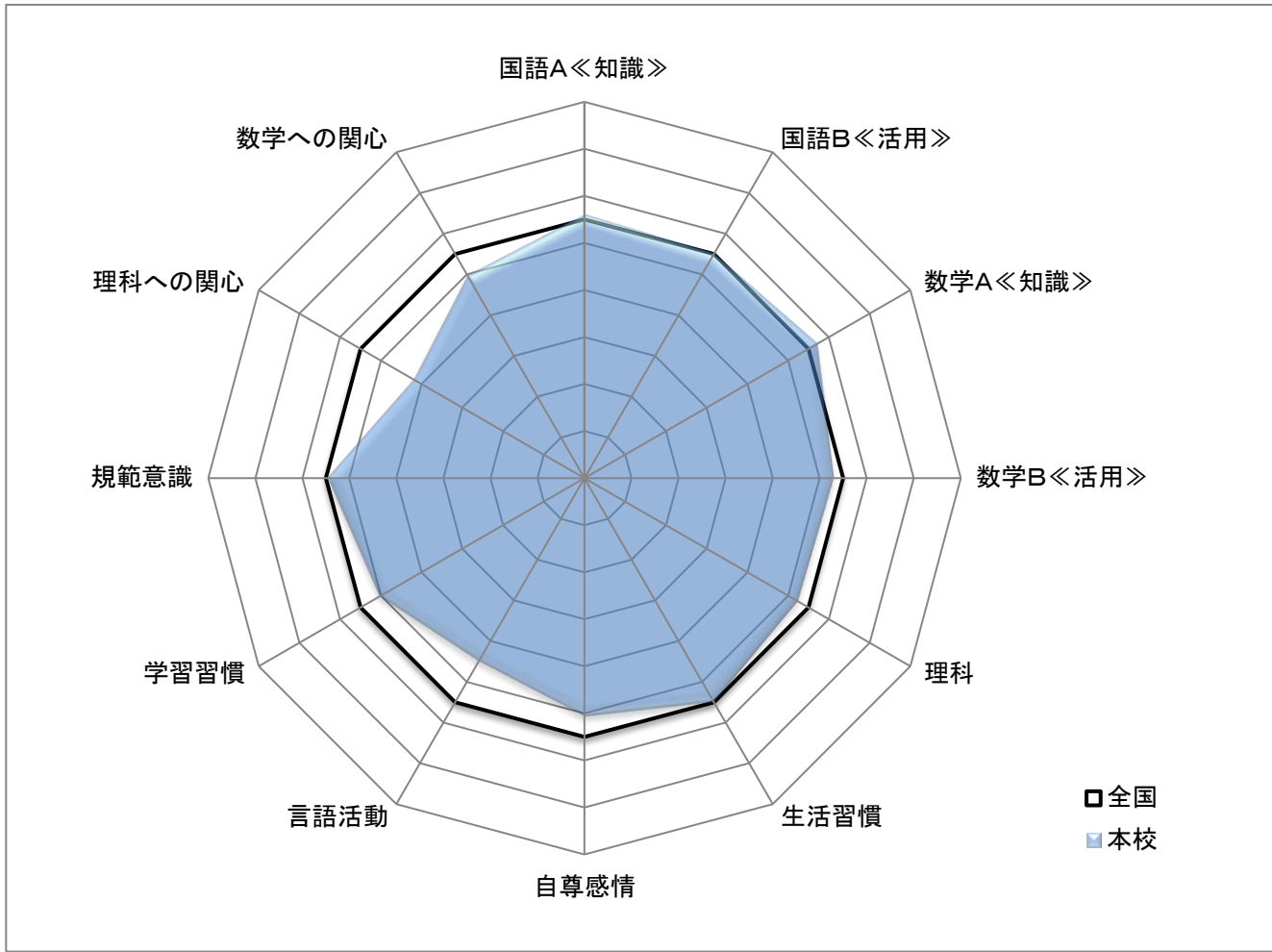


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

日頃から「あじみこし」を呼びかけ、規範意識や生活習慣を生徒自ら意識して律していることが数値に表れている。学習習慣は「学校の宿題をしている」では全国平均を高く超えているが、「家で自分で計画を立てて勉強している」では、全国平均を大きく下回っている。また、言語活動の各項目「授業で課題の解決に向けて考え、自分から取り組んでいた」、「授業で自分の考えを発表するときにうまく伝わるように工夫していた」「授業の話し合う活動で考えを深め広げた」の数値が全国平均の8割程度であることから、学習への取組方には課題がある。「将来の夢や目標がある」、「自分によいところがある」という自尊感情が低いのは進路指導の不足と考えられる。国語は2年時に比べ、話す・聞く、書く、読む、言語事項の4つの観点がバランス良く伸びてきた。数学は「数学的な見方・考え方」にやや課題がある。理科は生物・地学分野はよいが、物理・科学分野が平均を下回り、関心意欲態度、観察・実験の技能に課題がある。

《授業改善のポイント》

国語：資料やグラフから事実を読み取り考察する機会を設ける。長所として各設問の無解答率が低いので、引き続き問題に粘り強く取り組む姿勢を育てる。  
 数学：数学Bの観点を育てるために「数学的な見方・考え方」の内容を強化していく。グループ活動を通して、互いに教えあったり、考え方を共有していくことで、より一層の理解を深めていく。導入部分で興味をひく内容を行い、数学への関心を少しでも高めていく。  
 理科：観察・実験を取り入れた授業を行うことで、関心・意欲や技能を高めていく。授業の震度に合わせて問題演習を行い、知識の定着を図る。

《チャートの特徴》

生活習慣、規範意識は全国平均並みである。自尊感情、学習習慣、言語活動は全国平均を下回っている。数学、理科とも教科への関心は全国平均を下回り、数学は全国平均の9割、理科は7割5分程度である。教科の平均正答率については国語A知識・国語B活用はともに全国平均である。数学A知識は越えているが、数学B活用と理科はやや下回っている。しかし理科は3年前と比べ、大きく向上した。

《家庭・地域への働きかけ》

1. 家庭学習の習慣化
2. 予習・復習の定着
3. 国語の発展的学習として、新聞記事や社会的な出来事について家庭で話題にすることを期待します。